

平成28年度 学校評価 総括表



清新 敬愛 力行

奈良県立西和清陵高等学校

平成28年度 学校評価総括表

奈良県立西和清陵高等学校

<p>教育目標</p>	<p>教育環境の整備を図り、活力と創造力をそなえた人間形成を学校教育全般で育み、地域との連携を強化し、社会人として「生きる力」を育成する。</p>		<p>総合評価</p>
<p>運営方針</p>	<p>(1) 地域と共にある学校づくりの推進 (2) 教職員全員による学校経営への参加 ①報・連・相の徹底 ②教える者自身が学ぶ (3) 学校教育の充実と生徒理解の推進 ①子供たちの可能性を最大限引き出す ②部活動の活性化、生徒会活動の活性化 ③学校行事の充実 ④総合的な学習の時間等、体験学習の機会の充実 (4) 広報活動の充実</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>本年度の重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>学習面(学校での学習)・生活面において、基礎・基本の習得に一定の成果を得ることができたが、今後さらに主体的に学習や諸活動に取り組む姿勢を、一層伸長して教科間の教職員の連携・協力体制を強固なものとしていかなければならない。部活動の加入率が非常に低い。高校生活を充実したものにするためには必要不可欠なものとして捉え、部活動に参加する生徒をもっと増加できるように取り組む。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、確かな学力を身に付ける。</p> <p>・基本的な生活習慣の確立に取組み、社会に適応できる人づくりを目指す。(自らの進路を見据え、将来の夢や希望を持った生徒を育成する。)</p> <p>・正義感や責任感、連帯感を育み、思いやりを持った豊かな人間性を育成する。</p> <p>・たくましい体力と強い精神力を育む。 危機管理の共通理解。</p> <p>・地域との連携を一層強化し、「地域と共にある学校づくり」を推進する。(校内外の美化活動)</p>	<p>・基礎的・基本的な知識や技能を反復することで確実に習得させ、進路実現に向け自ら学ぼうとする力を身に付けさせる。 ・促進講座等を積極的に活用し、進路を実現する学力を伸長する。 ・スタディーサポートの結果を分析することで、学力と生活習慣(家庭学習)の関連性を的確に指導する。</p> <p>・夢・希望・志を育み、目標を持たせる教育活動を推進する。 ・LHR 活動などをおして、自らの生き方や進路について考えさせるなど、キャリア教育の充実を図り、三年間をとおした教育活動全般で、組織的・計画的に進路指導を行う。 ・高大連携による講義体験、模擬試験、資格取得を積極的に実施し、生徒の進路実現の意識を向上させる。</p> <p>・道徳教育を充実し道徳性を養い、主体的に判断する力と適切に行動する力を養う。 ・ホームルーム活動での人権教育・特別支援活動の充実(様々な人が生き生きと活躍できる共生社会を目指す)を図り、常に誠意(思いやりの心)を持って人に接し、相手の立場に立ったものの考え方を育成する。 ・集団活動やボランティア活動また就業体験活動を通して、基本的な生活習慣やルールを身につけさせ、豊かな人間性を育成する。 ・学校や学年また学級行事の意義を周知させ、本校生としての連帯感を共有させ、いじめの根絶に努め、実践力を育む。 ・清掃活動等の体験、奉仕活動を通して達成感、成就感、自己肯定感を育成するとともに、社会の一員としての自覚を醸成する。</p> <p>・部活動を積極的に奨励し、1年を通じ入部率6割を維持する。 ・生涯にわたって運動を楽しむ力を身につけ、自らの体力向上に向けて目標を立て、主体的に取り組む力を育成する。 ・健康教育(救急体制の徹底等)、安全教育(交通事故の絶滅等)、食育指導(朝食の徹底等)を充実する。 ・生徒会活動を活性化する。</p> <p>・地域のボランティア活動を一層強化する。プロジェクトチーム、教職員、生徒会、家庭クラブ、部活動、学級活動の連携の強化を図り、地域(三郷町制50周年)を取り込んだ協働活動を実践する。</p>	<p>B</p>

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策	
学習指導	基礎・基本の学力の定着	・目的意識を高め学習意欲の向上を目指して、自主学習時間を1日1時間以上させる。目標達成率50%	C	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査結果（%） 1年平日19.6、休日27.1 2年平日8.9、休日12.8 3年平日17.3、休日22.4となった。 学校評価アンケート（保護者）によると、82%が本校の授業は分かりやすいと評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も更に授業展開方法の工夫や教材研究を行う。予習・復習や課題の提出等の指導だけでなく、進路実現に向けて、家での学習の重要性を認識させたい必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の定着を図る為に家庭学習を促す取り組みをもっと進めるべきである。学習意欲を高める授業、分かりやすい授業を展開し、やたら出来る、もっと勉強したいと思える生徒を増やすよう研修や研究をして欲しい。
		・生徒が理解できる、分かりやすい授業を展開する。	A				
特別活動	ボランティア活動への参加・啓発	・募金活動、ボランティア清掃等への参加を増やす。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の売り上げを募金した。また、地域清掃には年間2回参加した。 活動する委員会と、あまりない委員会の差が出てしまった。 全体加入率は37.7%であるが、学年や男女による差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を動かしながら行事や取り組みを作り上げていくこと。行事の意味や目的を確認して行事に取り組みせられるよう、準備をしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に頑張る生徒は学校の活性化につながる。入部率を上げる取り組みを引き続き期待する。 地域が三郷町制50周年ということもあり、さまざまな取り組みへの参加は、良い経験になる。
	生徒会活動の活性化	・各委員会で行う内容を見直し、委員会活動から学校の活性化を促す。	B				
	部活動の活性化	・部活動紹介・体験を充実させ、加入率40%をめざす。	B				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・遅刻指導対象者および指導内容を共通確認し指導する。昨年度の30%減を目指す。遅刻指導を通して健康への意識高揚を図る。 ・一斉頭髪、服装点検を定期的実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻数は昨年を20%増となった。遅刻に対する意識高揚と指導改善を図る。 一斉頭髪、服装指導の定期的な実施ができた。 規範意識は向上しつつあるが、安易な考えや行動が招く問題行動を防止する。 生活アンケート結果、全校集会の活用。 全教員による指導を継続していく。 あいさつ強調月間で生徒の積極的な取組ができた。継続した取組にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣（健康管理、時間管理）の見直しと指導の強化を図る。 アンケート結果をHR活動につなげる。 生徒会、クラブ員によるあいさつ運動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席が多く生活習慣全般を見直し、指導の強化を図って欲しい。 規範意識の向上に努めて欲しい。これからも継続した指導をお願いしたい。 挨拶運動強調月間に限らずクラブ員や生徒会の生徒達によって継続して欲しい。
	規範意識の向上	・生活アンケートを実施し自己認識を高める。また、全校集会を通して集団意識の向上を図る。	B				
	あいさつの励行	・毎朝の校門でのあいさつ運動、SHRを通して、コミュニケーションを意識させ、その能力の向上を図る。	B				
進路指導・キャリア教育	進路希望の実現	・進路実現に必要な学力を養成するために、年間を通して促進講座を実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の協力も頂き実施できたが、学年によって参加生徒が少なかった。 職業人を招いての座談会のみ実施できなかったが、1・2年生については予定回数以上の進路ガイダンスが実施でき、多くの生徒が積極的に取り組んだ。 各学年に適切な資料を提示して進路情報を提供することができたが、その都度の活用については、もう少しである。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に早くから、学習等の重要性を生徒全体に知らせるため、集会等を活用する。 生徒の進路意識を向上させ、目標を設定させるために、進路ガイダンスの内容を検討し、進路資料室など積極的に利用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現の為に、促進講座を継続させ参加人数が増えるように進路にむけて力を与えるように期待する。
	キャリア教育の推進	・職業人を招いての座談会、保育園実習などを4回以上実施する。 ・進路講演会、進路ガイダンスを、各学年で年2回実施する。	B				
	進路情報の提供	・「進路ニュース」を年6回発行する。 ・進路説明会やオープンキャンパスの案内、及び進路情報誌を適切に提供する。	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策	
人権教育	人権意識の確立と仲間づくり	・人権HRを充実させることで、人権意識、ボランティア意識、道徳意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の実状に応じてそれぞれのクラスで人権HRを展開し、人権意識を高めることができた。 人権学習会として紅葉祭の時に生徒会と共催でハンドサインのコンサートを実施し障がい者への理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権課題が多様になり、それぞれの課題の対処方法が分かりにくくなってきたが、その時の大切なものをよく考え研鑽・研修の機会を設けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者にも参加してもらえる学習会は継続してもらいたい。そして、さまざまな人権問題に保護者も理解してもらえる学習の機会を増やし協力をさらに得られる努力をして欲しい。 	
	生徒、教職員、保護者の人権意識の高揚と連携	・時宜的な研修会や学習会の企画・運営。 ・生徒、教職員、保護者の共通した意識の高揚とそれに対する啓発活動の具体化を図る。	B				
教育相談 特別支援教育	教育相談の充実	・スクールカウンセラー配置事業の有効な活用に努め、精神的な不安を抱える生徒への相談の充実に努力する。 ・校内教育相談体制の構築に努める。 ・外部機関（教育研究所・医療機関・スクールカウンセラー等）との連携を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度早めに教育相談の研修会を行ない、カウンセラーの有効利用を認識してもらう。 「配慮を要する生徒」の情報共有が円滑かつ厳正に行われるために報告書のまとめと更新を早めに行い、諸会議毎に確認を行なう。 今年度のような非常事態にも対応できるように、支援員の増員を要請する。 特別支援教育支援員制度の有効利用と、発達障理解のため、外部講師による研修会を早め実施する。 引き続き年度当初の様々な調査や中学校からの情報等も鑑み、早い時期に生徒の状況把握を行ない、個々の支援・指導方法を早めに確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校には、配慮を必要な生徒が多く、継続してスクールカウンセラーを導入してもらい有効利用し、校内の教育相談体制の充実に努めて欲しい。 	
	特別支援教育の推進	・発達障碍等により特別な教育的支援を必要としている生徒の実態把握に努める。 ・学習活動や生活全般にわたる支援の促進と充実を図る。 ・特別支援教育支援員制度を活用して、効果的な授業中の学習支援に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問報告により、新入生で発達障碍が疑われる生徒の把握ができて、新学期開始時より、ある程度の支援体制がとれるようになった。 支援員制度が理解されるようになり、1学期は授業中の学習支援も上手く稼働していた。 2学期以降は特定の要支援生徒の状態が悪化し、専属で支援してもらうことになってしまい、他の生徒たちへの支援が難しくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省から今年度から入学前に中学校訪問を実施され、新学期より支援体制に生かされたようで、これからも継続してもらいたい。 特別支援教育支援員の有効利用と要支援生徒が少しでも授業での支援が行き届くようにしてもらいたい。 	
保健・安全管理	生徒の心身の健康状態の把握と対処	・各検診の事前、事後指導の徹底。 ・学校保健委員会を通した生徒の身体状況、健康状態の共通理解。	A	<ul style="list-style-type: none"> 各検診の事前、事後指導は出来ている。 学校保健委員会、研修等で共通理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自ら身体状況の諸問題に興味を持って改善しようとする意識を持たせる為に、指導者側の意識の向上と、知識の深化を図りたい。 保護者への働きかけを出来るよう改善したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自らの自己管理ができるように育てて欲しい。 	
	危機管理体制の整備と安全教育の推進	・校内救急体制マニュアルに基づく緊急時の適切で迅速な体制の共通理解。 ・生徒指導部と連携して生徒を対象とした安全教育の実施。	B	B			<ul style="list-style-type: none"> 校内救急体制マニュアルに基づく緊急適切で迅速な体制の周知徹底。職員、生徒対象に講師を招き熱中症・スポーツ障害対策・心肺蘇生法についての講座を開き、応急手当の理解を深めた。
	食育教育の推進	・生徒の実態把握に基づく全体推進計画の策定 ・生徒、保護者への啓発活動。	C	<ul style="list-style-type: none"> 保健や家庭科の授業で食事の摂り方や栄養の重要性などを学習した。 			<ul style="list-style-type: none"> 朝食を食べずに登校してくる生徒が多い。食育についてもっと考えさせる機会をもつことが大切である。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
教職員の研究・研修	生徒の実態・ニーズを踏まえた研修の実施。実践につながる研修講座への参加。教科の枠を超えた授業公開・授業研究の実施。	・教科・分掌の研修講座や研修会への積極的な参加奨励と研修内容の共有化を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所の研修講座等への参加を教科や分掌等に促し、参加してもらったが、研修内容の共有化を図るための工夫が必要である。 ・観点別評価やアクティブ・ラーニングや生徒指導・進路指導・教育相談等の研修を実施した。 ・保護者に向けての公開授業を実施した。また、初任者の研究授業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの研修講座への積極的な参加を促すだけでなく、研修内容の共有化を図るために、報告会や研修資料の閲覧ができる方を考えることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・
		・学習・生徒指導・進路指導・教育相談等に関する研修の実施 ・授業公開・授業研究の実施	B			
学校事務	運営方針に基づいた円滑な学校運営のための教育環境の整備。	・生徒が安全に学べる環境である事を当然とし、学習しやすい学校である事を目標とした環境整備を関係各部署との連携を図りながら行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・格技場・屋内運動場の非構造部材耐震対策工事は事故等もなく無事に完了。視聴覚室のエアコンの更新等職員からの希望があった整備には出来るだけの対応を行った。 ・特に支援金関係の問合せが多いので事務室内での情報の共有を図ったが、徹底するまでに至らなかった。県教委担当課の担当者が異動したこともあり連絡・調整が上手く図られなかった事案が生じた。 ・今年度からのエアコンの稼働に関しては電気機器の更新等様々な要因により使用料金に関しては予算内で執行が出来たが、機器・設備の適切な使用についての周知を徹底するまでには至らなかった。クラブ等の活動になるべく支援できるように努力はしたが、金額的な問題もあり全てとはいかなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校敷地内の整備においては、長年の積み重ねがありその分費用も時間もかかる。単年度ではなく数年度計画を立てて対応していきたい。また事務室内での情報の共有化を図り内部統制の強化を行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経費削減等の問題もあるが、本校の抱える問題に優先順位を付けて順次、解決していくことを望む。
	的確な文書・物品の管理に基づく丁寧な接遇を行う。	・今年度も昨年度の反省内容を生かしながら、親切丁寧かつ迅速であり、わかりやすい説明を心がけた対応を行う。また、そのための文書及び物品管理を的確に行えるように管理体制を整理する。	B			
	学校運営経費及び、光熱水費の適切な執行管理	・空調設備設置モデル事業が本格的に始まり、今後の予測が非常に難しいが、予算状況は余裕があるとはいいかねる状態になると思われる。より一層の削減、省エネ等についての啓発に努め、予算の執行を適切に行う。また、生徒の活動により多く支援が出来るような徴収金等の執行に努めたい。	B			
広報・渉外	学校の教育活動の紹介	・広報誌「紅葉」の発刊及びHP等による広報活動の推進 ・本校HPの中中学生や卒業生に対する内容の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「紅葉」の内容は年々充実してきて、今年も豊富な内容で学校の様子を伝えることができたと思う。 ・HPは担当者が定期的に更新。すべての行事等について紹介できた。 ・オープンキャンパスは全校体制実施をやめ、写真等を使って学校の様子を紹介した。 ・同窓会は活動が停滞ぎみであるが、管理を業者に委託したことで会員への連絡を徹底することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷業者との連携をさらに円滑にし、よりイメージに近い仕上がりにしたい。 ・参加者数を増やすためにも実施日について再考する。 ・役員を再組織し自発的な活動に発展させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPで、昨年に比べてさらに定期的に更新がされていくことを期待する。
	保護者・地域・関係諸機関との連携強化	・オープンキャンパスの内容の再検討。特に生徒の様子を紹介できる工夫について考える。	B			
	同窓会の組織	・同窓会組織の整備、名簿管理の業者委託。	A			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策	
図書情報	図書情報を活用した学校生活の展開。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、教員からの推薦図書を充実させる。 授業をサポートできる図書館の役割を推進させる。 学校行事（朝の読書・本を語ろう会等）の活性化を図る。 図書館だより及び新着図書紹介等の内容を充実させ、利用者を増やす。 図書検索システムを活性化させる。 ホームページ等で情報発信を活発にする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科からの推薦を選書に反映させ、幅広い分野の図書が増え、授業、学校行事等でサポートできた。 学校行事（朝の読書、本を語ろう会等）では、広報活動や図書委員会活動の活性化により、本に親しむ生徒が増えた。 図書館だより等の内容の充実・工夫などにより図書館利用者が増えつつある。読書習慣の定着が今後の課題である。 「365日いつでもネット」に学級担任も発信できるようになり、徐々に利用が増え、迅速な情報発信に役立った。更なる活用の促進が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書購入における、綿密な情報収集・選書、図書紹介等をさらに工夫する。 各行事においては事前指導を徹底し、内容の改善検討、図書委員会活動の内容を深める。 学級文庫の活用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書や本を語ろう会など継続して、少しでも本に親しむように継続指導を期待する。
環境・美化	校内施設の保全、安全・防災環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 美化関連用具、及び清掃用具の点検保全。 四季折々の花を絶やさない美化活動。 救助袋を使用した防災学習・訓練の実施。 「きれいな学校・西和清陵高校」をスローガンに校内美化の意識を高める。 安全点検を日常的に行うことにより、危険箇所や潜在危険を早期に発見し、事故災害の可能性を除去する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の不具合が多かった。 危険な生徒用机の修復と椅子の交換。 チューリップや葉ボタンなどの植栽。 避難訓練に関するDVD（釜石の奇跡）を視聴した。 「きれいな学校」への意識が高まったのか、目立つゴミが少なくなった。 安全点検を引き続き行ったが、対処に緊急を要する危険箇所は発見されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ほうきの先端やモップ部分の交換、窓用水切り等の新規購入など清掃用具の整備が必要。 スローガン「きれいな学校」のため、拭き掃除の頻度を高める。 安全点検の定着化 地域により貢献できるよう通学路清掃の機会を増やす。 ゴミの分別回収の意識の涵養を普段から行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の学ぶ学校に誇りを持たせ、公共物を大切にすることを高めて欲しい。
	地域に「開かれた学校」となり地域コミュニティにおける役割を担う	<ul style="list-style-type: none"> 通学路清掃について、地域の行事の一つとして定着させるとともに、生徒が地域の人たちとコミュニケーションをとることができる体験の場にする。 ゴミの分別回収の啓発と徹底。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 通学路清掃時、地域の方から挨拶をしてくださることが増えた 分別用のごみ箱に対象外のゴミが混じっていることがあった 		<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動に積極的に参加して、さらに地域と共にある学校づくりに努めて欲しい。 	
第1学年	基本的生活習慣の見直しから確立へ	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶励行 時間厳守の徹底 身だしなみの指導の徹底 礼儀や正しい言葉遣いの定着 規範意識の定着 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶週間を設ける。 体調管理を含め、家庭と連携強化を図る。 善悪の区別ができ、周囲の気持ちを配慮できる力を構築する。 授業をきちんと受ける忍耐力を定着させる。 進路指導等を通して、自分の将来像を考えさせる機会を増やし、自分を大切にすることや本校で成長していく意欲につながるよう指導する。そうすることにより、目標を設定させ、家庭学習の定着と基礎学力の充実を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生が遅刻が多い。基本的な生活習慣を身につけさせ、学校生活のリズムをつけさせるように。 早い時期から進路の目標を考えるようにさせ、家庭学習の定着を図ることが大切である。 	
	学び直しから基礎学力の充実へ、	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本的内容の復習 家庭学習の定着（予習復習） 授業を大切にしている意識の育成 	B				
	帰属意識と愛校心の育成および学校生活での目標設定	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活の理解となかま意識の育成 学校行事や課外活動への積極的参加 思いやりの心の育成 将来を見据えた学校生活の充実 	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
第2学年	中堅学年としての 自覚と基本的生 活習慣の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上と規律ある行動の確立 ・基本的生活習慣の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識は昨年度よりは向上したが、規律ある行動は、今後の3学年時の行事等に期待される部分も残っている。また、遅刻や欠席等、基本的生活習慣の確立に課題が残っている。 ・修学旅行を無事に終え、他の行事に対しても積極的に取り組めるようになった。 ・授業を大切にしているが、家庭学習に対する意識が低い。 ・進路実現に対する意識や具体的な取り組みが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行等の行事を通して培った集団の力をさらに充実させ、全体の基本的生活習慣の改善に努めさせたい。 ・個人面談等を通して早期に具体的進路目標を設定させ、実現のために情報収集と学習に努めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中だるみの学年であり家庭学習時間が少なく、問題行動等も多いのが気になる。全部活動の入部率も低く、目的意識をもって学校生活を送ることが大切である。
	進路実現に向けた 学習の習慣づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にしている態度の涵養 ・確実な家庭学習の実現 	B			
第3学年	最高学年としての 自覚と社会の一員 となるための資質 の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立、規範意識の向上等、社会で通用する人格形成の指導に重点を置き一定の成果を挙げた。 ・学校行事等に主体的に取り組み、充実した生活を送った。 ・進路実現に向け具体的目標の早期設定をし、多くの者が希望を叶え将来に繋げた。 ・進路決定後の更なる実力養成が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた目標設定が生活全般の意識向上に繋がるため、目標の早期設定を学校全体の重要課題として取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の卒業生は、217名ということで、入学時の240名から23名が退学や転学し進路変更となった。ここで学んだ三年間の事をこれからの自分の進む道において大きく成長してくれることを期待する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上 				
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等への主体的な参加 				
	進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標の早期設定 	B			
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実と促進講座への積極的参加 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定後の指導の徹底 				